

精神薄弱者収容施設の整備を行なう。

成人病対策
成人病については、疾病の予防と体位の向上を第一の課題とする。このため、早期発見、早期治療を目的として、一般検診を実施し、現在の一般検診九割を五〇年には三〇％にまで高める。子宮がん検診率については、二割から二〇％へ引き上げるように努力するとともに、特にかん治療機関の充実、予防思想の普及をはかる。

母子保健対策
本県の妊産婦の死亡率は全国に比較して高いので、母子保健指導と助産施設を併設した母子健康センターを、五〇年までに、へき地および農山漁村を優先的に県下全市町村に一カ所あて設置する。さらに、母子保健法による母子の健康管理体制を確立するため、地域の実態に即した妊産婦、乳幼児の保健対策を総合的に推進する。

体位の向上
県民の栄養状態は、食糧事情の回復とともに次第によりなりつつあるが、三七年度農山漁村地域の栄養調査の結果によると、一人一日当り摂取量は熱量二、〇一八カロリー、蛋白質六五、脂肪二四、ビタミン類の摂取量も不足し、米食偏重の食形態であり、栄養失調症候、有症者が二七・三％に及んでいる。また、妊産婦の栄養状態も悪く、乳幼児の発育が阻害されている。このため、

体位向上対策として、五〇年度を目標に県民一人一日当り摂取量を熱量二、三〇〇カロリー、蛋白質七五、脂肪三八、ビタミンA一、九〇〇国際単位、ビタミンB₁・二、B₂・二、C六三、D₃五、で向上させる計画であり、栄養教室、農繁期の共同炊事、集団給食施設などの栄養指導を行ない、栄養指導車による巡回指導を強力に推進する。

共同保健計画の推進
共同保健計画は、県民の保健衛生に対する自主的な活動、すなわち地区組織活動を基盤として、市町村が中心となり、その地域の住民とともに保健の向上をはかるものとするものである。保健所から計画推進に必要な技術的援助指導を受け、計画、実施、評価の一連の過程を共同で行ない、効果的な公衆衛生活動を展開して、真に県民の健康の保持増進に役立つ保健計画を市町村が樹立し、推進するものである。

献血の推進
県内に必要な保存血液の量は、年間約一万ℓであるが、その獲得については、全面的に献血による方針のもとに献血運動を強力に推進し、五年後にその完遂をはかる。

現地の顔
ことしの四月、県境のこの町に、交通安全監視隊が誕生した。国道三号線が、昭和三十七年に完全舗装されると、交通量はうなぎ昇りに増加。同時に交通事故も続発した。国道沿いの鹿北町は、もともと交通安全について、意欲的で、五年前から新入学児童の登下校を見守る安全リレーを続け、夏の居眠り運転防止のため、早朝の国道で冷いジュース

現況と問題点
最近におけるめざましい経済成長の結果、次に、農林省家計調査(三七年)によ

＜表1＞ 低所得階層世帯の推移 (単位：千戸)

区分	昭36		37		38	
	戸数	対前年比	戸数	対前年比	戸数	対前年比
総数	205	200	98	192	96	
均等割のみを納める世帯	175	169	96	160	94	
非課税世帯	30	31	103	32	105	

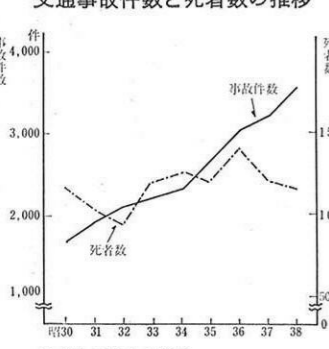
＜表2＞ 生活保護適用者の推移

区分	昭33	34	35	36	37	38
	保護世帯(千戸)	16.1	17.0	17.5	17.9	19.0
保護人員(千人)	46.7	49.0	49.6	51.7	55.3	59.6
指数(%)	100	105	106	111	118	128
保護率(%)	25	26	26	28	30	32

注) 世帯数は年度、人員および保護率は歴年による。
(資料) 社会福祉統計報告、生活保護速報

少年および児童対策の状況
児童福祉については、従来、要保護児の収容措置に重点が置かれ、一般児童に対する積極的な対策は比較的行なわれていなかった。しかし、最近における非行少年児童および事故死などの激増にともない、少年および児童の問題が大きな社会問題として重視されてきている。

＜図1＞ 交通事故件数と死者数の推移



(資料) 県警察本部調べ

【お知らせと訂正】次号の県計画シリーズは「商工観光の振興」を予定しています。主な項目は、工業、鉱業、商業、中小企業、観光で、特に中小企業の問題に焦点を絞ってみたいと思います。なお、前号県政ハイライトの中で集中豪雨被害写真の説明で「坂本村にて」とあるのは「人吉市にて」の誤りでした。お詫びいたします。

低所得階層のうち最も低いところに位置するのは、いうまでもなく生活保護階層である。本県における生活保護世帯の推移をみると、表2のとおり、三八年における全国平均の保護率一八％に

対して、本県は三二％と非常に高い率を示している。

老人、心身障害者および母子世帯
最近における平均余命の伸びにともない、六五才以上の老令人口は三八年度県人口の七割を占め、また、身体障害者は、手帳交付を受けているものだけでも、二万九、〇〇〇人に達している。さらに、精神薄弱者は全人口の三割に及ぶものと推定され、母子世帯は一万五、〇〇〇世帯という現状である。

交通事故の増加
経済の高度成長、産業の近代化がすすむにつれて、自動車交通も異常な発達をとげたが、それにもない交通事故の増加も著しく、いまや大きな社会問題となっている。

生活保護の状況
こうした低所得階層世帯の状況を住民税の負担の面から眺めると、表1のとおりであり、均等割のみを納める世帯は、全世帯の約三九％、非課税世帯は約八％を占めている。

現地の顔
ことしの四月、県境のこの町に、交通安全監視隊が誕生した。国道三号線が、昭和三十七年に完全舗装されると、交通量はうなぎ昇りに増加。同時に交通事故も続発した。国道沿いの鹿北町は、もともと交通安全について、意欲的で、五年前から新入学児童の登下校を見守る安全リレーを続け、夏の居眠り運転防止のため、早朝の国道で冷いジュース

町ぐるみの交通安全
鹿本郡鹿北町の交通安全監視隊
一名。毎日一人づつ交替でパトロールにあたる。県境から山鹿市の境界まで一〇キロの国道三号線とその他のローカル線をたえず往復するわけであるが、

交通安全の増加
一方、婦人会では、鎮守さまのお守りを縫い込んだ黄色い腕章を、ここの新入学児童全員に贈って、関係者を感激させている。

社会福祉計画

現況と問題点
最近におけるめざましい経済成長の結果、次に、農林省家計調査(三七年)によ

現地の顔
水俣市の山の手ほど近い所に「ともすればくじけそうになる毎日を、子供の笑顔が支えてくれます。職員の方たちのお陰で、卑屈なところもありません。」とCさんは語る。

寮長、保母、児童指導員の三人という数少ない職員が子供のしつけに一生懸命である。そのせいか、この寮の子供たちは、めっぴう明るく人なっこと、明るい生活にと、明るい生活

明日に希望を

水俣市立母子寮